



「比和自然科学博物館だより」として、新情報や収蔵展示資料の紹介などをしていきます。紹介した展示資料が館内のどこにあるのか、探してみると楽しいですよ！

※展示標本と写真の個体は同じではない場合がありますので、ご了承ください。

今月の推し虫

和名:ウラナミアカシジミ
学名:*Japonica saepestriata*



(上)背面

(下)腹面

年に一度、梅雨時の雑木林に現れる蝶たちがいます。通称ゼフィルスと呼ばれる蝶たちです。雄の翅表は緑～青緑に輝くものが多く、裏面の模様もよく似ていて慣れないと区別が難しいのですが、その中でウラナミアカシジミだけは簡単に区別ができます。名前の通り赤みがかったオレンジ色の蝶で、翅の裏面に黒い波形の点でできた模様があります。幼虫は、クヌギやアベマキ、コナラなどブナ科の植物の若葉を食べます。本種の生息地もそれらの食樹がある樹林ですが、樹齢の若い木を好むので、定期的に伐採されるような雑木林に多いようです。つまり、奥山の蝶ではなく、人の生活に密接した人里の蝶だったのですが、山林の価値が低下し放置されることで、次第に生息地が減少しており、「レッドデータブックひろしま2003」以降、絶滅危惧Ⅱ類にリストアップされています。現在の「レッドデータブックひろしま2021」でもランクに変化はありません。本種と同様な環境に生息する昆虫でも、食樹の好みの差により個体数に変化が見られないものもあり、多様な森林の管理が必要ながわかります。

【解説：秋山美文（比和自然科学博物館客員研究員）】

